

窓辺

わたなべ ひでひこ
渡辺 英彦

麵デルの法則

「イタリアに行きたい」と最初に思ったのは、MJQ（モダンジャズカルテット）の「たそがれのベニス」を聴いた時だ。音楽にも魅了されたが、映画「大運河」の舞台となった「ベニスの黄昏」を見たくなったからである。

別に薦めたわけではないが、大受験目前の娘がイタリアに行きたいと言う。想いは伝わるものだ。「〇〇大学に合格したら、イタリアに連れていく」。馬鹿な親がよく使う手だが、娘には効果てき麵（面）。模擬試験がD判定、E判定の難関校を次々突破し、第一志望校に合格してしまったのである。

「あなたのお名前なんてーの？」で一世を風靡したコメディアンのとニー谷のフレーズに「家庭の事情」がある。焼きそばに翻弄され一年が経ち、今度は息子が受験生。放っておけない家政婦状態の妻という「家庭の事情」でイタリアに思

いはせる父娘「二人きりという夢のような旅行が今春、実現した。どんよりと曇った運河の向こうに佇むマジョーレ教会は「たそがれのベニス」のイメージそのもので、私は何度もシャッターを切った。ラファエロやミケランジェロ等、本物はやはりすごいが、喧騒を逃れ娘と共に訪れたサン・マルコ修道院で見たアンジェリコの「受胎告知」、サンタ・マリア・デッラ・ウィットトリア教会のベルニーニの「聖テレーザの法悦」など至福の記憶である。

イタリア文化の素晴らしさに触れるほど、自分のもとを離れていく娘（来年、留学予定）の姿が想像でき、複雑な想いに駆られた。あいや、まだ我が娘によるやきそば学会イタリア支部設立という手がある。麵食いの子は麵食い（＝麵デルの法則）、想いも遺伝するはずだから…。

（富士宮やきそば学会長）